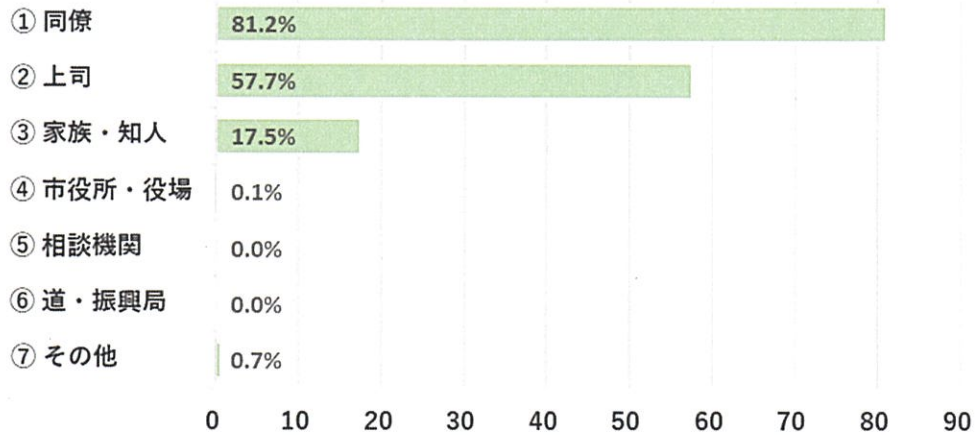


問4(2)コ 虐待行為等を行いそうになった際の相談先【複数回答あり】

* 虐待行為等を行いそうになった際の相談先は、「① 同僚」が81.2%と最も多く、次いで「② 上司」が57.7%、「③ 家族・知人」が17.5%となっています。

(n=685)



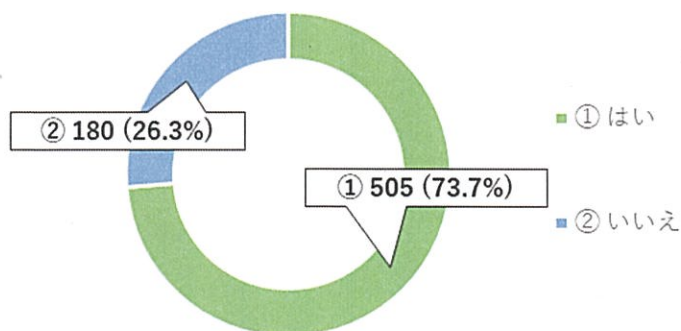
< 「その他」の主な内容 >

1	利用者の家族
2	コールが頻回で介護員の説明を聞き入れずに待って頂けない。
3	無回答
4	申し送りでの周知
5	他施設で働いている介護職員。

問4(2)サ 虐待行為等を行いそうになった際の相談による改善状況

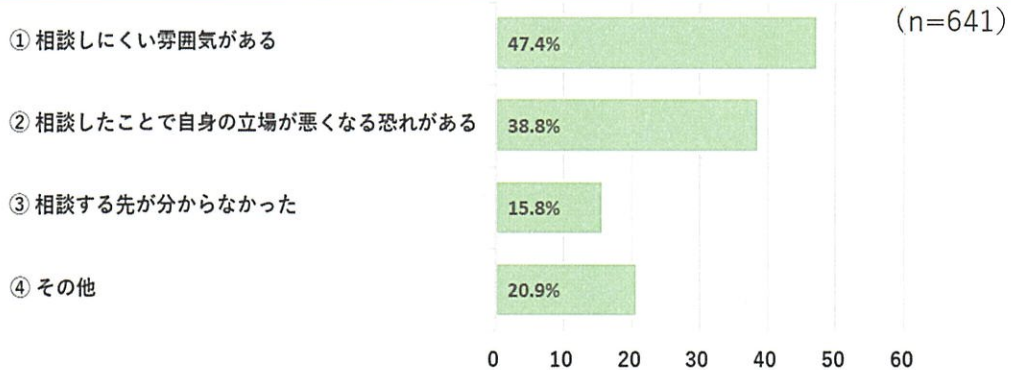
* 虐待行為等を行いそうになった際の相談による改善状況は、「① はい（改善した）」が73.7%となっており、「② いいえ（改善しなかった）」は26.3%となっています。

(n=685)



問4(2)シ 虐待行為等を行いそうになった際に相談しなかった理由【複数回答あり】

* 虐待行為等を行いそうになった際に相談しなかった理由は、「① 相談しにくい雰囲気がある」が47.4%と最も多く、次いで「② 相談したことで自身の立場が悪くなる恐れがある」が38.8%となっています。



<「その他」の主な内容>

1	心の中で思ったのみで、実行はしていないため。
2	感情コントロールなので落ち着くと平常になる。
3	自己反省することができているから。
4	自分の気持ちに余裕がないことが原因だと思っている。
5	相談しても状況は変わらない。
6	相談したところで、人手不足の状況は簡単には変わらないので。
7	日常的に暴言、暴力ある方の為 仕方ないと思っているから。
8	認知症だとわかっていたから。
9	相談したいと思える上司が存在しない。
10	職員全員が被害にあっていたので、相談するまでもなかった。

問4(2)ス 相談した結果、改善されなかった理由【自由記載】

<「その他」の主な内容>

1	職場の忙しさが変わらず、どんどん職員がやめていき負担がどんどん増えてストレスがとてもおおい。
2	介護現場は慢性的な人員不足のため、人員補充による業務改善は望めない。虐待防止のために向けた様々な策を施設側は提案してくれているが、日々のストレス軽減や業務改善には至っていないため。そういった状況を同僚や上司に報告し、自発的なメンタルヘルスケアによって状況改善を望むより、ストレスの軽減に努めるしかないと感じているから。
3	利用者さん本人の認知症もあり、攻撃的で暴力行為もある為、抑える職員を増やしても変わらず対策が出来なかった。
4	同じような経験者が多く、改善が見込めない認知症だからなど、周辺症状に耐えるしかないと考えていた。
5	介護の現場で働いていない管理職が動きを理解していないため、言っても無駄だと思い、同僚にしか相談していない。以前、管理職に相談したり、ケース入力しても全く聞く耳を持たずスルーされたからそう思っている。
6	現場と上部部の価値観に齟齬のある職場環境。
7	人員不足が改善されず、介護の負担が増えたため。
8	勤務状況が多忙であると余裕がないため。余裕がない状態だと、ゆっくり行動したり、考えることが難しく単略的な行動になりやすい。
9	人員不足で皆同じ思いをしているが一人の職員の負担が多く、介護や雑務などいろいろな仕事がたくさんあるので職員のメンタルも不安定になっているから。
10	対応がわからないのと、他人事になっている。

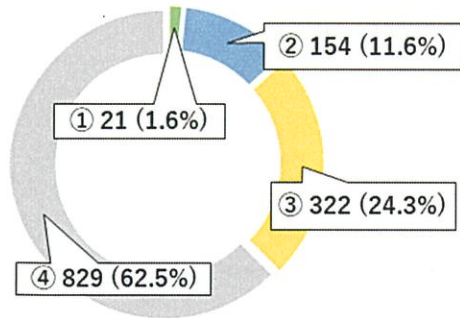
虐待を行いそうになったことがあると回答した職員の傾向について

問1(1) 通算経験年数

* 勤務年数が長い職員ほど虐待行為等を行いそうになったことがある傾向にあります。

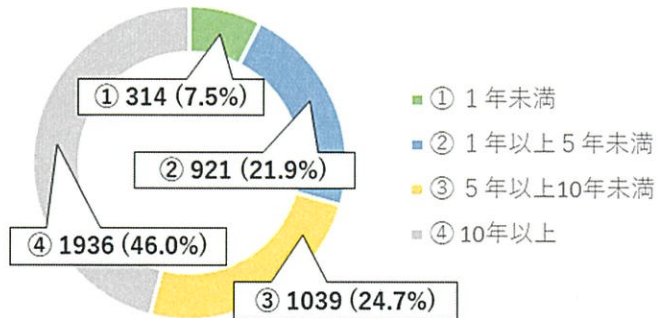
行いそうになったことがある

(n = 1,326)



行いそうになったことはない

(n = 4,210)

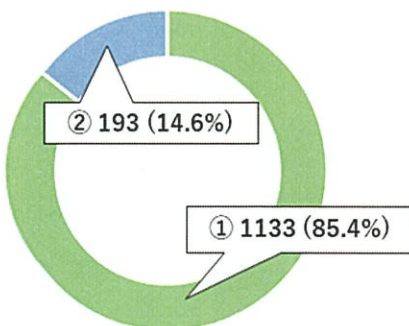


問1(2) 雇用形態

* 正社員の方が虐待行為等を行いそうになった経験がある傾向にあります。

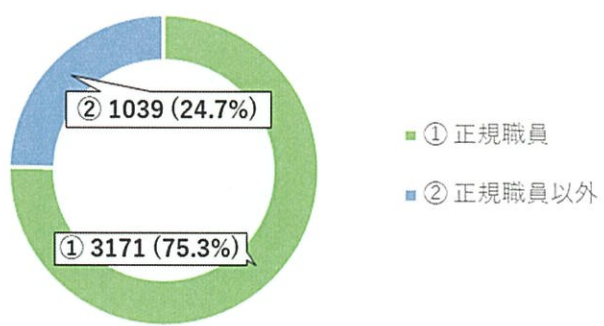
行いそうになったことがある

(n = 1,326)



行いそうになったことはない

(n = 4,210)



問2(1) 業務負担

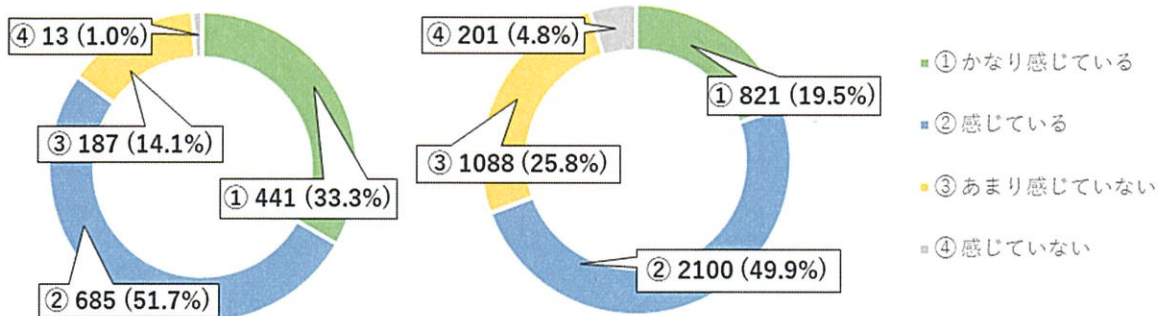
* 虐待行為等を行いそうになったことがある職員は業務の負担感が強い傾向にあります。

行いそうになったことがある

(n = 1,326)

行いそうになったことはない

(n = 4,210)



問2(3) クライアントハラスメントの状況

* 虐待行為等を行いそうになったことがある職員の多くがクライアントハラスメントを受けた経験があると回答している傾向にあります。

行いそうになったことがある

(n = 1,326)

行いそうになったことはない

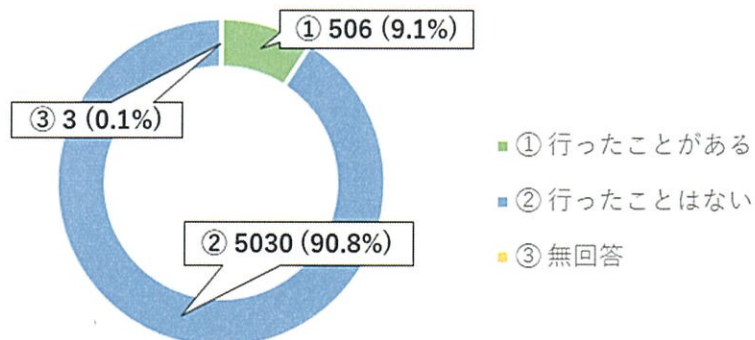
(n = 4,210)



問4(3) 虐待行為等を行ったことの有無

* 虐待行為等を行ったことの有無は、「① 行ったことがある」が9.1%となっており、「② 行ったことはない」が90.8%となっています。

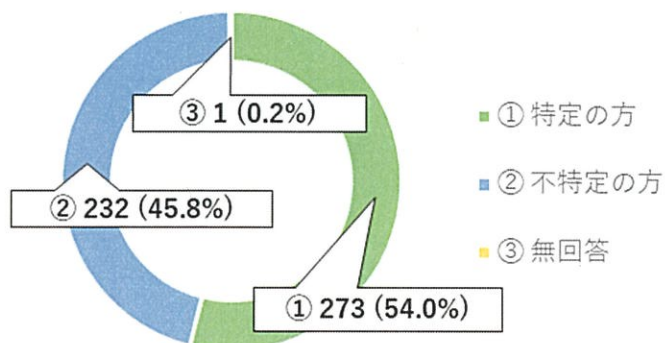
(n=5,539)



問4(4)ア 虐待行為等を行った対象者

* 虐待行為等を行った対象者は、「① 特定の方」が54.0%となっており、「② 不特定の方」が45.8%となっています。

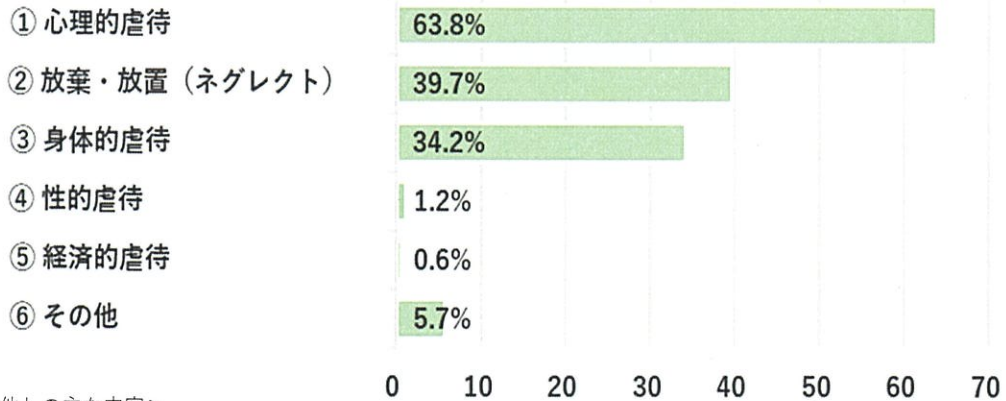
(n=506)



問4(4)イ 行った虐待行為等の内容【複数回答あり】

* 行った虐待行為等の内容は、「① 心理的虐待」が63.8%と最も多く、次いで「② 放棄・放置（ネグレクト）」が39.7%、「③ 身体的虐待」が34.2%となっています。

(n=506)



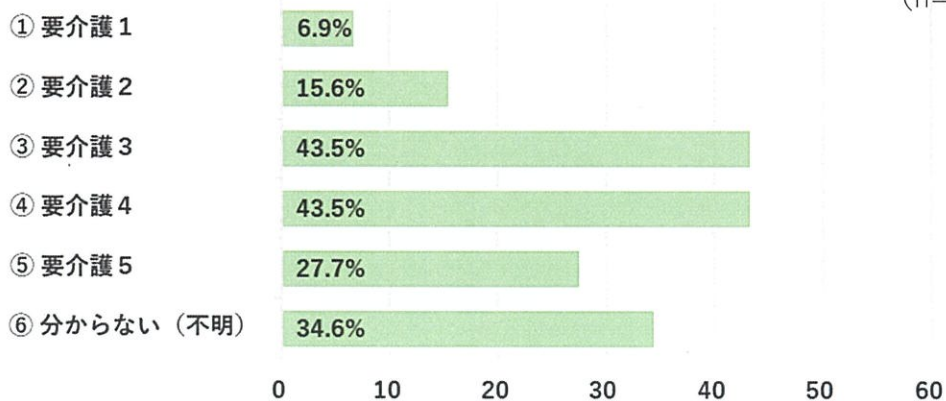
<「その他」の主な内容>

1	「ちょっと待って」などのスピーチロック
2	ちゃんやあだ名で呼び名を呼んでしまった事が不適切行為。
3	言葉遣いの悪さ
4	待っててと待たせる、職員と遠くから排泄の確認をすることがある。
5	一人での処置の際、手で妨害されるので、掛け物で手を押さえました。
6	対応を待たせてしまった。
7	色々な形でアプローチをしても納得頂けなかった時に、どうして良いか分からず無視してしまった
8	呼ばれていることを解っているのに優先度の高い方の対応に追われ無視、または後回しにしてしまう。
9	暴力を防ぐために手を押さえたりしていた。
10	カーテンを閉めずにオムツ交換を行ってしまった事がある。

問4(4)ウ 行った虐待行為等の対象者の状態（要介護度）【複数回答あり】

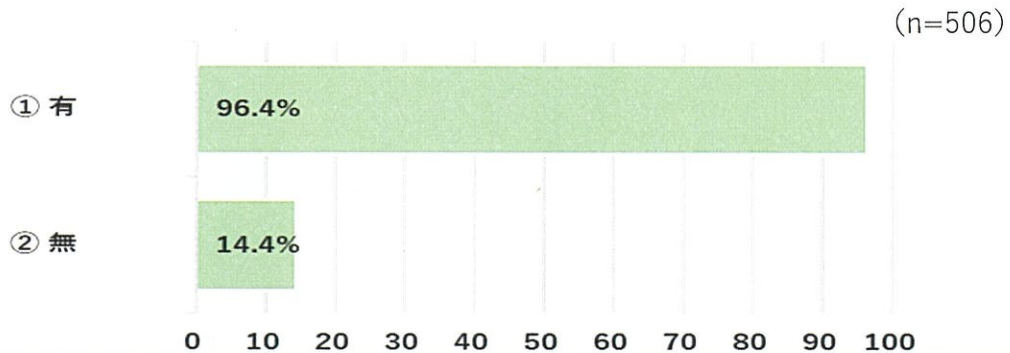
* 虐待行為等を受けた方の要介護度は、「③ 要介護3」、「④ 要介護4」が共に43.5%となっており、次いで「⑤ 要介護5」が27.7%となっています。

(n=506)



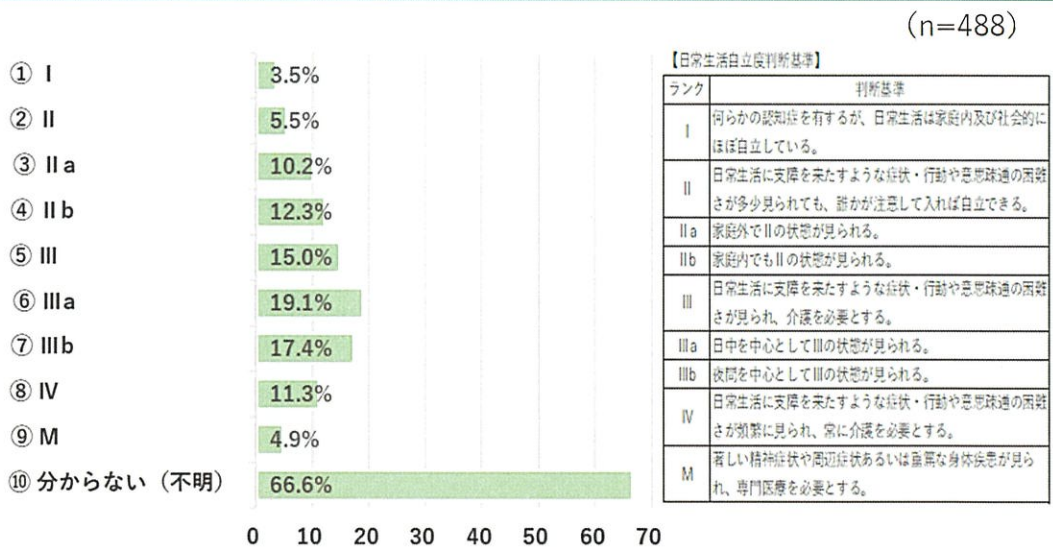
問4(4)ウ 行った虐待行為等の対象者の状態（認知症の有無）【複数回答あり】

* 虐待行為等を受けた方の認知症の有無は、「① 有」が96.4%となっており、「② 無」の14.4%を大きく上回っています。



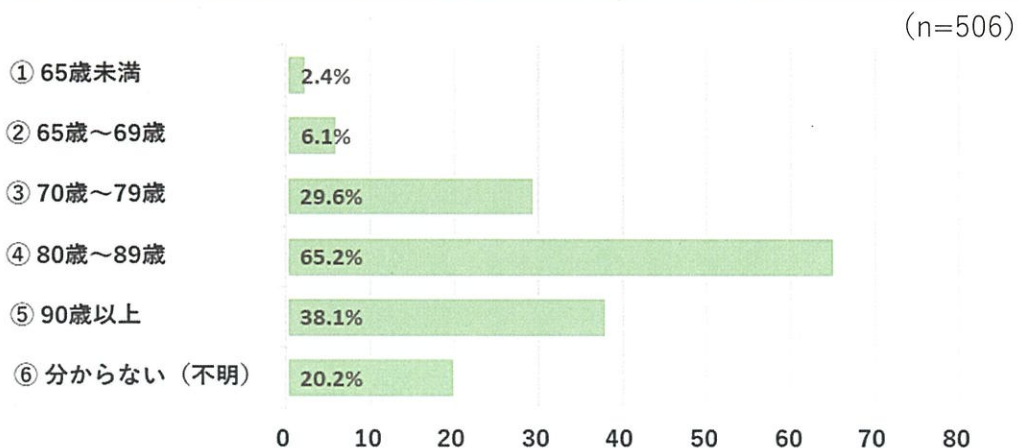
問4(4)ウ 行った虐待行為等の対象者の状態（日常生活自立度）【複数回答あり】

* 虐待行為等を受けた方の認知症高齢者の日常生活自立度は、「⑥ IIIa」が19.1%となっており、次いで「⑦ IIIb」が17.4%、「⑤ III」が15.0%となっています。



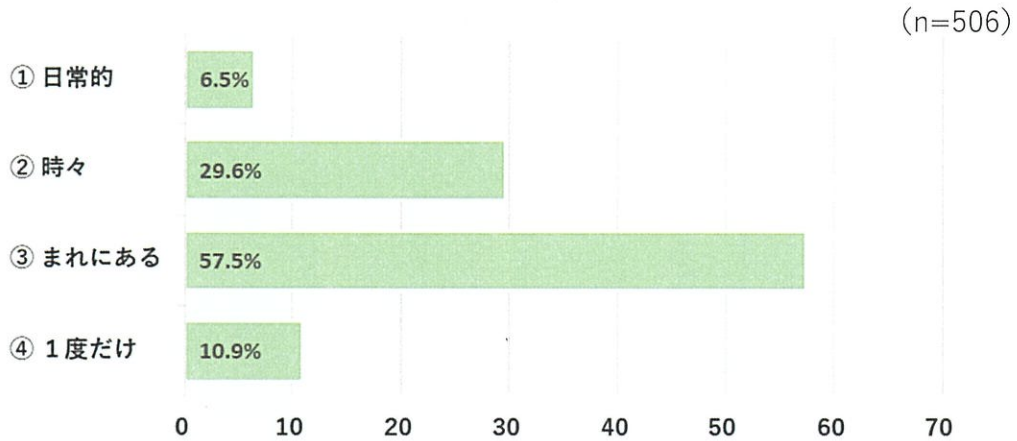
問4(4)エ 行った虐待行為等の対象者の年齢【複数回答あり】

* 虐待行為等を受けた方の年齢は、「④ 80歳～89歳」が65.2%と最も多く、次いで「⑤ 90歳以上」が38.1%、「③ 70歳～79歳」が29.6%となっています。



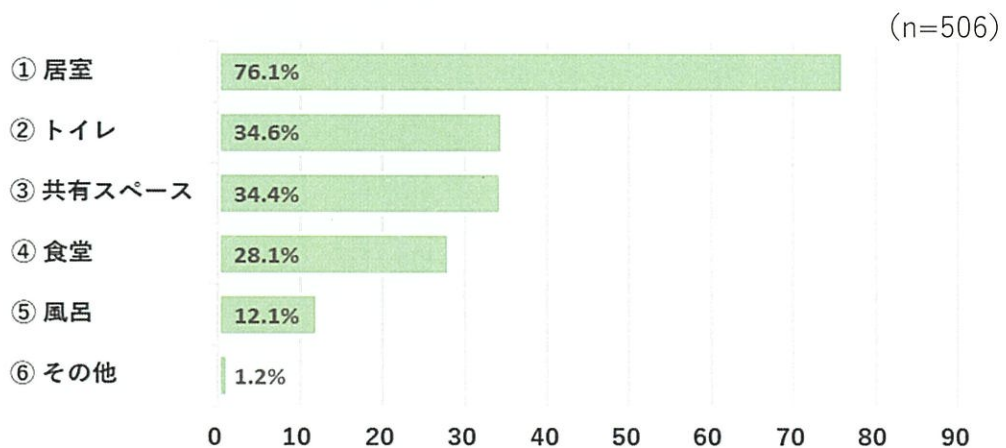
問4(4)オ 虐待行為等を行った頻度【複数回答あり】

* 虐待行為等を行った頻度は、「③ まれにある」が57.5%と最も多く、次いで「② 時々」が29.6%、「④ 1度だけ」が10.9%となっています。



問4(4)カ 虐待行為等を行った場所【複数回答あり】

* 虐待行為等を行った場所は、「① 居室」が76.1%と最も多く、次いで「② トイレ」が34.6%、「③ 共有スペース」が34.4%となっています。

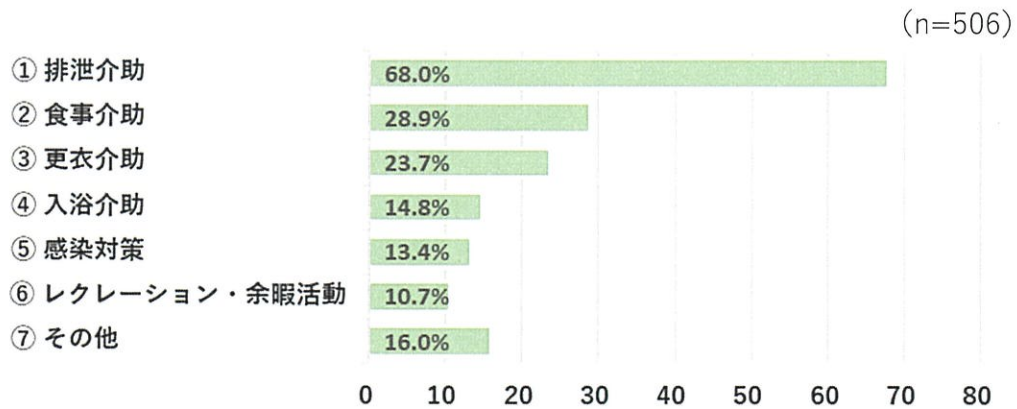


< 「その他」の主な内容 >

1	暴力、暴言があり、感情を抑えるためにその場から離れた。
2	施設内の接する全域
3	リハビリスペース
4	夜間コール複数鳴ったとき
5	廊下
6	他者居室

問4(4)キ 虐待行為等を行った場面【複数回答あり】

* 虐待行為等を行った場面は、「① 排泄介助」が68.0%と最も多く、次いで「② 食事介助」が28.9%、「③ 更衣介助」が23.7%となっています。

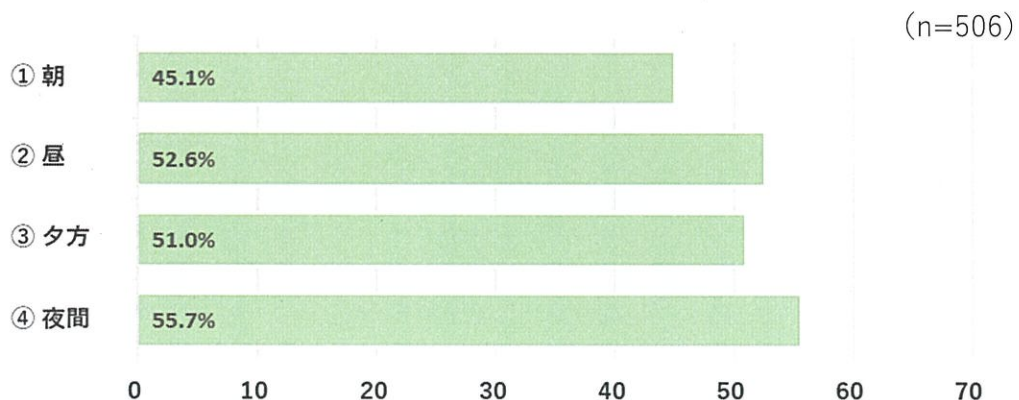


<「その他」の主な内容>

1	他者の介助で、すぐに対応することが困難だった。
2	同じ質問を繰り返す方がいて、その方だけを見ることができず、話しかけてきても相手にしてもらえない
3	口腔ケア時。
4	センサー、ナースコール呼び出し時
5	就寝介助時
6	夜間不眠時
7	徘徊を頻回に繰り返す方の対応場面
8	一日中トイレの訴えや食事の訴えを大声で言われる方に聞こえないふりをしたことがある。
9	利用者様が何度も同じことを繰り返し言い、きちんとした対応をしても聞き入れない、聞かない、自分の言い分だけをしつこく言う。急に怒りだし、暴力、噛みつき、引っ掻くなどの行為あり
10	車椅子からベットに移乗した際に髪を掴まれ、顔を殴られたり唾を吐きかけられたため。

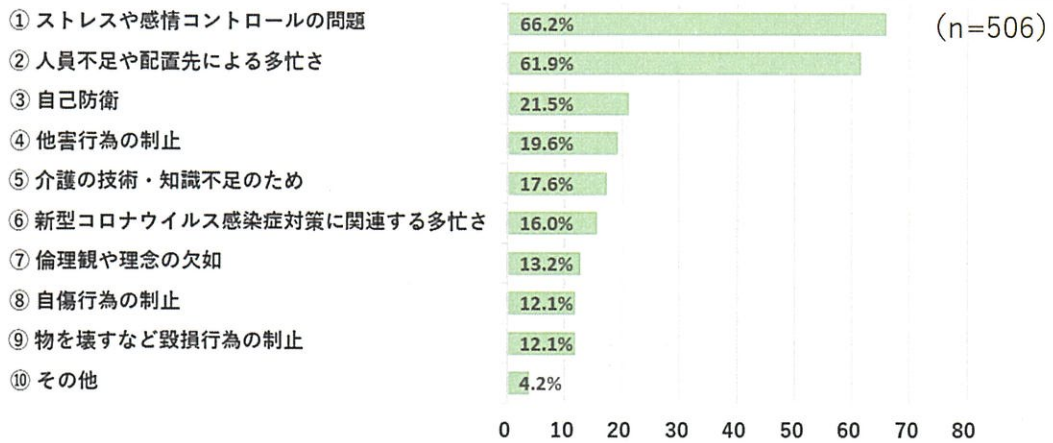
問4(4)ク 虐待行為等を行った時間帯【複数回答あり】

* 虐待行為等を行った時間帯は、「④ 夜間」が55.7%と最も多く、次いで「② 昼」が52.6%、「③ 夕方」が51.0%となっています。



問4(4)ケ 虐待行為等を行ったきっかけ・要因【複数回答あり】

* 虐待行為等を行ったきっかけ・要因は、「① ストレスや感情コントロールの問題」が66.2%と最も多く、次いで「② 人員不足や配置先による多忙さ」が61.9%、「③ 自己防衛」が21.5%となっています。



<「その他」の主な内容>

1	対象の入居者が便汚染で汚れていてオムツ交換しようとしたが他の入居者がトイレ誘導を希望した為、寝たきりの入居者のため危険性が少なく待ってもらって他の入居者を優先した。
2	転倒などのリスクが高い方の排泄介助などを行っているとき。
3	介助の際に毎回、殴られたり唾を吐きかけられたりして不満だった。手は出せないが腹が立って嫌な事を言ってしまった。
4	居室内で同様の話をずっとされていると、最初是对応出来るが、ずっとは難しい。多床室でオムツ交換中ずっと話されてしまうと、対応困難。相手にしてみると、無視されているといった感情になるかもしれない。
5	その人だけを見るのは配置基準的に難しく、常に声をかけられても対応できない。
6	その場を離れないといけない状況で排泄介助の途中でその場を離れてしまった
7	本人の希望と後は飲み込みにくさから、つい食べやすいように介護士側の都合で
8	おむつ交換時に区切るためのカーテンが無く、同居室の利用者様に見えてしまう状態で行った
9	利用者への配慮が足りない言動をとってしまった。浣腸処置後の反応便について性状や量の確認を利用者が聞こえる音量で話してしまったなど。
10	施設入居者される前から、あだ名で呼ばれる事が日常だった方で、苗字で呼ぶより愛称やあだ名で呼ぶ方が返事をしたり気分を良くされる為。

問4(4)コ 虐待行為等を行った際の相談の有無

* 虐待行為等を行った際の相談の有無は、「① 相談した」が48.0%となっており、「② 相談しなかった」は51.8%となっています。

(n=506)

